

主体的な学びのための持続的デザインシステムの構築

Building of the sustainable independent design system to learn

大網 美代子

Miyoko Oami

大妻女子大学家政学部

Faculty of Home Economics, Otsuma Women's University

キーワード：主体的な学び，デザインシステム，創意工夫

Key words : Student-led, Design system, Inventive approaches

1. 研究目的

実技実学教育の考え方は、現在でも変わることのない理念であり、被服学科の実習授業の意義は、知識や理論を実践することである。3年次の授業「創成工房」では、1・2年次に学んだ知識と技術を活かして、企画からデザイン制作およびプレゼンテーションまでを総合的に実践している。ファッション造形学研究室では、「現代ファッションの問題点や課題を解決する」「社会のニーズに合わせた提案」という視点でデザイン制作を行っている。7年間の事例を基に実物資料を提示しながらデザイン制作を行っている。その結果、デザインをイメージしやすくなり創作のプロセスへスムーズに移行できたことから、実物資料の提示は有効であると考えた。ここでデザイン制作とは、デザインから縫製工程を含めた衣服の完成までを意味する。また、デザイン設計は、デザイン要素である形と装飾などを組み合わせてイメージを描くことをデザインとし、パターン制作を設計とする。

本学では、デザイン制作に特化したカリキュラムを有していないため、現状を踏まえ、主体的な学びの中でデザイン制作を効果的に行うには、特にデザイン設計において、創意工夫ができるような環境としてデザインシステムが必要であると考えた。本研究は、研究室に所有している実物資料のアーカイブをデータ化して、課題やイメージに合わせて必要なデータを出し入れできるようなトレーニング方法を確立することを目的とする。

2. 研究内容及び成果

デザインシステムは、図1に示す通り、デザイン発想からファーストサンプルまでの工程について、デザインとパターンの相応性を理解して、デ

ザインを広げ方向性を見定めてから始めることで、効率よく進めることができる。従って、創意工夫のための時間に充てることが出来る。デザインのアイデア出しや発想のトレーニングこそが重要であり、課題やイメージに合わせて必要なデータを整え、そのデータを出し入れできるトレーニング方法とパターン作成までを網羅したものである。

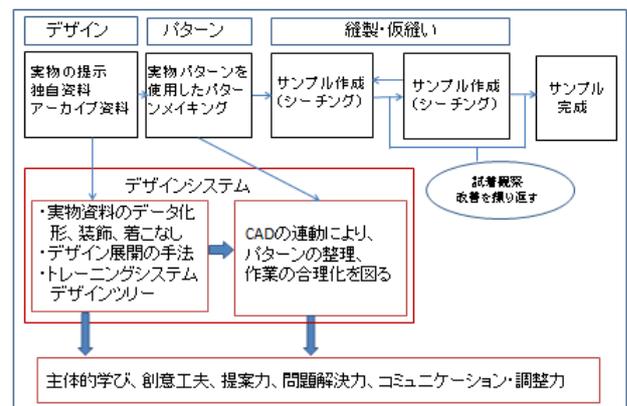


図1. デザイン設計における主体的な学びのためのデザインシステム

デザイン設計のための実物資料のデータ化は、デザインの表現方法であるデザイン画をデータ化した形と装飾を組み合わせで行うものである。デザイン画はプロポーションが重要であり、データ化することで正確な服のイメージにつながり、組み合わせをすることでデザイン展開を容易にすることが出来る。

2-1 資料のデータ化および有効性

- 1) 創成工房の過去7年の資料
- 2) 筆者の独自資料

3) 西洋服飾および明治期の洋装の復元資料

資料をデータ化した後、図 2 のように、デザインの構成要素を形と装飾に分類する。

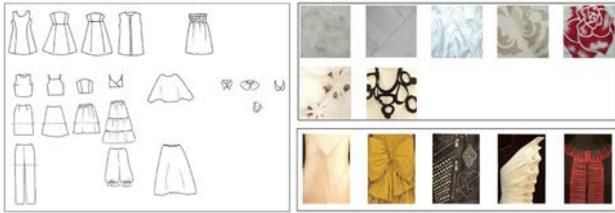


図 2. デザイン要素のデータ化

左 形, 右上段 装飾 未来への提言,
下段 装飾 MODERN FASHION in DETAIL

また、データには「装飾」「サイズカバー」「機能美」などいくつかのキーワードを設定して、検索できるように整理することで、必要な課題に対してデータを引き出しやすくなる。更に、パターンについては、CAD システムを連動させ合理化を図る。

2010（平成 22）年度『イラクサを活かしたデザイン制作』の実施において、実物資料および「創成工房」のアーカイブ資料を提示したことでデザイン展開がスムーズになる効果が見られたことから、デザインシステムに必要なデータと考え、過去の「創成工房」の成果を検証することで、資料が有効であることを明らかにした。

2-2 トレーニングシステムの検討

イメージ構築のためのデザインツリーを考案し、検証を行った。デザインツリーはデザインの系路・イメージの構想を構造化したもので、ビジュアルで服飾デザインのアイデアを広げるものである。頭の中にある無意識の深層心理を形にするのではなく、イメージの方向性を定め、デザイン展開の枝を伸ばしていく方法である。授業内でデザインツリーを使用して演習を行い、効果を検証している。

2-3 システムの再現性

2013（平成 25）年度以降、デザインツリーの方法を用いてデザイン展開を行っているため、2012 年度までに出現した新しい提案について、デザインツリーで同じような成果が再現できるかを考察し、再現性があることを明らかにしている。

2-4 成果

現在、実物資料のデータ化と整理を行っている

段階であるが、実物資料を使用した成果として、現代ファッションの問題点を解決する視点で「流行に左右されないスタイル」「環境に配慮したデザイン」が挙げられる。スタンダードなシルエットに装飾をカスタマイズすることでデザイン展開を行い、さらに変化するデザインを加えることで、着用者に着こなしの自由度を残し、デザインに参加する新しいスタイルの提案をすることができた。

実物資料およびデザインツリーを使用した成果として、「ユニバーサルファッションのデザイン設計」では、社会のニーズに対応した大学ならではの視点の提案となった。2013-2015 年、大妻女子大学人間生活文化研究所共同研究プロジェクト「ユニバーサルファッションの設計・デザインに関する開発研究」の助成を受けたものである。

1 例を挙げると、2010 年に筆者が制作した図 3 の作品を参考に、図 4 のように、車椅子を使用している人のためのデザイン設計を行った。



図 3. 《パーツの再構築》 装飾をカスタマイズ
2010 年制作 （著者所蔵）

図 3 の実物資料は、シルエットや装飾が変化することで、視覚に訴え動作を引きおこすデザインである。創意工夫のプロセスのための重要な役割を果たしている。車椅子の座位姿勢に対応させ、裾にはボタンと花の装飾を使用して安全でデザイン性のあるドレスに仕上げた。立位姿勢のシルエットにも対応させた汎用性にあるデザインである。更に、「座位姿勢に対応した機能」をキーワードにデザインを考え、座ったままでも着やすいように、ファスナー開きを作らずに立襟部分の両サイドを開け、頭からかぶって着用できるようにした。また、ウエスト切り替えを胸下にするウエストを圧迫せず、後ろの切り替え部分を上下に分けて、シャーリングの装飾を加えた。更に、デザインツリーを使用して、「背面の構造」「ラグラン袖（切り

替え)」をキーワードにデザイン展開を行い、デザインの可能性を検証した。



図 4. 座位姿勢に対応したユニバーサルファッションとデザインツリーを使用したデザイン展開 (写真 右)

3. まとめと今後の課題

「創成工房」は、主体的な学びである学生主導型の PBL 方式の授業であり、PBL には、Project-based Learning (プロジェクト型) Problem-based Learning (問題解決型) がある。前者については、企業と連携を図る産学共同プロジェクトとして多くの教育現場で実施されている。ファッション造形学研究室では「現代ファッションの問題点や課題を解決する」視点で「流行に左右されないスタイル」「環境に配慮したデザイン」「機能美に特化したユニバーサルファッションのデザイン設計 (身障者と健常者が衣服を共有できる)」という課題を設定してデザイン制作を行っており、後者の問題解決型の方向になる。授業の成果である課題への提案と主体的な学びの双方の向上を図るため、デザイン制作に特化していないカリキュラムの現状で効果を上げるための環境が必要であると考え、デザイン設計の創意工夫に重点をおいたデザインシステムについて研究を行った。創成工房は、学生にとっても教員にとっても問題解決の場であり、

社会ニーズへの提案や現代ファッションの問題点を解決するという視点は、大学ならではの立ち位置であり、新しい提案をするための提示資料が有効であることは言うまでもない。システムは課題やイメージに合わせて必要なデータとデータを出し入れできるようなトレーニング方法を加えたもので、誰が使用しても同様の成果を出せるような再現性があると考え。授業で提示している実物資料 (研究者が研究を続けている衣服のデザイン設計) と創成工房および研究室所有の資料のデータ化は、デザインの基礎として感性を比較するスケールとなる。トレーニング方法として考案したデザインツリーについては、授業内で実施をして効果を検証している。デザインシステムは、服飾デザインの教育現場において、デザインの構成要素や必要なデザインの方向性を設定することで、目的に応じたデザイン展開が可能であると考え。

今後も資料のデータ化および整理を進めながら、デザインシステムを使用して、以下のような実践を行い、データの分類方法の検証、項目間の関係性やデザインの方向性の検討を行い、新しい提案ができるようなデザインシステムを確立していきたい。

- 1) ユニバーサルファッションの体系的な資料
- 2) 高齢者衣服のデザイン設計
- 3) 卒業制作のデザイン設計

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]大網美代子, 服飾教育における主体的な学びのためのデザインシステム—創意工夫・提案力を中心に—, 服飾文化学会誌<論文編>, 査読有, Vol.16, No.1, 2015, p.85-101

②学会発表

[1]大網美代子, 飾育への取り組みとその構築—ユニバーサルファッションのデザイン・設計—, 服飾文化学会第 16 回大会 2015 年 5 月 17 日, 大妻女子大学

(2016 年 3 月 31 日現在)